

県民防災週間 2017 シンポジウム

だれでもできる防災・減災

日時：平成29年7月19日（水）13：30～16：24

場所：サンポートホール高松 5階 第2小ホール

主催：香川県、(一財)消防防災科学センター

共催：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

内容：

13:30～13:35 主催者挨拶 香川県知事 浜田恵造

- ・香川県防災対策基本条例 制定日を記念し7月15日～21日を県民防災週間。
- ・金田先生より「西日本大震災への備え ー南海トラフ地震と内陸地震への県民の心構えと減災ー」 地震分野の第一人者、内閣府の委員も。
- ・国崎先生より「家庭や地域の防災対策 ～自分を・大切な人を守るために～」 家庭の防災を考えられてきており、だれでもが実践できる防災・減災対策のお話が聞ける。
- ・香川県では、南海トラフ地震のDVDを制作した。是非見ていただきたい。
- ・交通死亡事故 ワースト2 事故にあわない、起こさないの気持ちで、交通事故防止に。
- ・自らの命は自らが守るとの防災意識のもと取り組んでいただきたい。



13:35～13:39 主催者挨拶 (一財)消防防災科学センター 理事長 高田恒(たかだひさし)

- ・暑いさなか、大勢の方に参加いただき、ありがとうございます。
- ・香川県は、知事が先頭になって防災に取り組まれ、毎年このようなシンポジウムを開かれている。
- ・昨年度は震度7の揺れを2度経験した熊本地震、その後も各地で災害、今年に入っても災害が続いている。近年、従来にない気象変化が起きていると感じている。
- ・台風3号の上陸により全国各地で災害。亡くなられた方のご冥福を心から願う。
- ・本日は金田先生、国崎先生から話がある。二人とも、全国的に防災について活躍されている方で、みなさまにも参考になるものと思う。
- ・みなさまの熱意と尽力により、みなさまの地域が安全で住みよい町になりますよう祈念し挨拶とする。

13:41～15:03 講演1「西日本大震災への備え ー南海トラフ地震と内陸地震への県民の心構えと減災ー」

○講師：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター長 特任教授 学長特別補佐 金田義行(かねだ よしゆき)

○プロフィール

- ・54年東京大学大学院理学系を修了
- ・平成9年海洋科学技術センター 津波プロジェクトリーダー
- ・昭和54年 東京大学理学系研究科大学院地球物理学専攻修士課程修了
- ・平成6年 東京大学理学博士号取得後、平成9年 海洋科学技術センター(現：国立開発研究法人海洋研究開発機構)入所。地震津波・防災研究プロジェクトにおけるプロジェクトリーダー
- ・名古屋大学減災連携研究センター特任教授を経て、平成28年より現職
- ・主な著書に『地球と生きる～災害と向き合う知恵～』(富山房インターナショナル)など。

○東日本大震災の教訓

- ・大津波、甚大な被害、復興途上 → 減災とともに復興を考えなければならない
- ・陸前高田：陸前高田の津波と実際の人々の動き → いかにか早く高いところに避難するか、情報を伝えるか
- ・液状化、建物の倒壊
- ・津波火災：道具も人も水もない状態で、火を消せない。気仙沼では1週間燃え続いていた。

○活断層と構造帯

- ・断層が無いから地震が無いというわけではない。

○熊本地震

- ・数年前より微小地震が増加

○広域複合災害

- ・地震、津波、液状化、建物崩壊、火災 → **複合災害**

○熊本地震

- ・2度揺れ、地盤災害 → 内陸地震への備えも重要

○地震は繰り返す

- ・プレートが動き続ける限り、地震は繰り返される
- ・過去の誘発地震や誘発噴火の記録

○重要施設（病院）の機能保持

- ・長周期地震動、地盤や建物の高さが影響する。
- ・耐震補強の有無の違い

○「ぶるる」の実感

○津波シミュレーション

- ・あの避難路は液状化や建物の倒壊で使えるだろうか。
- ・津波到達までの猶予時間、どう避難するか訓練にシミュレーションを活用して。

○さらなる海域観測の必要性

- ・どう観測すれば、早く地震活動を押さえられるのか。
- ・液状化被害：復旧・避難の遅延

↓

想像力を働かせて、実践的な訓練、対策

○地震津波の実動訓練

- ・構造物の耐震性確認
- ・対応できる人数の確認と

- ・避難経路の確認（倒壊、液状化、火災等での安全性は？）
- ・避難にかかる時間？ 避難期間の想定？
- ・連絡体制？
- ・復旧支援体制？

○東海・東南海・南海地震連動（時間差連動シナリオ）

- ・時間差で発生すると揺れている時間が長くなる
- ・同時に発生すると揺れが強くなる

○風水害への備えも

○ため池地震被害（福島）

○2017九州北部豪雨災害

- ・早期避難、タイムラインの重要性
- ・地震で被災した防潮堤、防波堤を復旧するには時間がかかり、その間に水害も。
- ・スーパー台風の襲来も

○巨大地震、広域複合災害への備えが重要

○減災に向けて

- ・備える： ハード：耐震化、防潮堤ほか
ソフト：訓練、防災教育
- ・日頃の対策：まち歩き、気づき
- ・災害時対応：避難、救命、救助救援
- ・復旧復興：支援、地域創生、事前復興計画
- ・共通課題：人材育成

○3つの備え

- 1) **経験**：過去の災害を後の災害に活かす。
- 2) **土地勘**：どこが危なくて、どこが安全かを知ることが出来る。
- 3) **平常時**：平常時を知っておけば、何が異常なのかを速やかに察知できる。

○何に見えますか？

- ・**気づき**
- ・町歩き、日頃のコミュニケーション、少し違った視点から訓練を繰り返す。
- ・いろいろな視点で物事を見る。
- ・気づき、脆弱性を見つける

○レジリエントな未来社会を目指す

- ・個の継続
- ・家族の継続
- ・地域社会の継続

- ・ 国家継続
- ・ アジア圏継続
- ・ 国際継続

↓

減災科学モデルの国内・国際展開

○教育訓練システム

- ・ 学校の、児童の安全を守るためには・・・

○災害後いかに地域を強靱化、復興するか

- ・ 四国の人口減少 → 強靱化、イノベーションで右肩上がりに
- ・ いろいろな分野でいろいろな知恵、イノベーションが出てくるはず
- ・ 地震の前の備え、災害時、災害後の備え
- ・ 地域経済循環率 香川県は99.2%
- ・ コミュニケーション、リテラシーの向上が重要

○災害は忘れなくてもきます。

15:03～15:12 質疑

男性①Q：早明浦ダムが四国の水資源としてインパクトがある。地震でどれほどの被害が出て、香川県に影響がどれほど出るか。

金田A：SIP 農水省の農業検討 ため池やダムの検討はいろいろやっている。ダムの被害も小さくてすむのではないか。

- ・ ダムがやられて水が無くなった場合の影響ですね。香川県だけでなく四国全体の問題。

男性②Q 原発、伊方のことをどうお考えですか。

金田A：福島は災害では、大きな津波で電力が途絶えた。その経験を踏まえていろいろな対策をしているはず。だから安全だとは言いませんが、私の研究からすれば、いかほどの津波がくるのか、そのときにどれほどの電源の確保が可能なのか。気づきとして、もう少し大きな津波がきたときに、電源をどこにおいておくのかなど、検討が必要。

男性③Q：満濃町 土器川のそばに住んでいる者。洪水の時にたくさん木が流れてきて心配。土器川の川の中にいっぱい木が生えている。小便川なので、水が無いので木が生えている。「動物愛護で切れない」という。古い橋がいっぱいあり、木について関心はいかがか。

金田A：気づき 橋脚に引っかかってあふれる。愛護、私自身情報を持っていない。どこまで改善されるのか、みなさんと議論すること。

- ・ 高知市 二つの川がなめらかに流れるようにコンクリートを作っている。しかし、これは津波の遡上の際には逆となり、がれきが引っかかるなど、異なる場所であふれるかもしれない。

15:12～15:22 休憩

15:22～16:22 講演2「家庭や地域の防災対策 ～自分を・大切な人を守るために～」

○講師：株式会社危機管理教育研究所 代表 国崎信江

○プロフィール

- ・横浜市生まれ。危機管理アドバイザー。株式会社危機管理教育研究所代表。
- ・女性として、生活者の視点で防災・防犯・事故防止対策を提唱している。
- ・現在は、文部科学省「地震調査研究推進本部政策委員会」委員など国や自治体の防災関連の委員を務めるほか、講演活動を中心にテレビや新聞などのメディアに情報提供を行っている。
- ・また、被災地での支援活動を発生直後から継続して行っている。
- ・主な著書に『決定版！巨大地震から子供を守る50の方法』（ブロンズ新社）など。

○内閣府 南海トラフ地震が起きたときのシミュレーションの映像

○津波高さ、浸水エリアを「安心材料」として聞いているかもしれない

○熊本地震

- ・益城町：庁舎は耐震補強をしていたので崩壊はしなかったが、地盤が軟弱だったので、全職員待避となり、庁舎で災害対応が出来なかった。
- ・「行政が何とかしてくれる」の考えは捨て、自助、共助で。

○自分の命は自分で守りましょう

- ・「自分の命は自分で守りましょう」とは当然のこと。
- ・自分のためのものは自分で用意し、自分の排泄のこと、寒さ対策は自分でやること、それが熟成した社会。
- ・災害時には、「行政が持ってこない」と文句を言う。
- ・海外では自己責任や自己防衛 ピストルを持ってもいいけれど、自分の命は自分で守る

○全壊家屋

- ・耐震補強を選ばなかったのはあなたの判断。
- ・しかし、ご近所さんがあなたを助けようと、余震の続く中、危険な作業を。
- ・あなたが下敷きになっているがれきの上を踏んで津波からの避難を・・・
- ・倒壊した家が、偶然そばを歩いていた通学生やベビーカーを押している親子を襲うかもしれません。

○背が高かろうが、低かろうが、重かろうが、軽かろうが

- ・全ての家具が動きます。
- ・逃げ道をふさぎ、家具が凶器となる。
- ・全ての物を対策して。
- ・固定すると、中身が飛び出しやすくなる。

○テーブルや机への絶対的な信頼を検証する

- ・テーブルの下に避難する事で命を守れるのか？
- ・テーブルも倒れることを考えて。
- ・物に近づくよりも、何も無い廊下に逃げた方が・・・

○子供に災害時の身の守り方を教えましょう

- ・親が守れない状況があることを前提に
- ・子供だけでなく、大人も団子虫のポーズ
- ・四つん這いのポーズだと、家具の下敷きになっても、自力で脱出できる可能性が高まる。
- ・団子虫のポーズは私が開発者。

○防災を生活に定着させるために（生活習慣）

- ・必ず来る直下型地震に備え、物を減らしてきた
- ・全ての物をストッパー キャスター、滑り止めシート
- ・インテリア小物の素材を変える 柔らかく、軽い素材に変えてきた

○非常持ち出し品は「一人一つを備える」

- ・リュックをやめて防災ベストに リュックは被災者を背負えない、津波から早く避難できない。
- ・非常持ち出し袋を持って避難所に避難してきた人を見たことがない。6割の人が玄関に置いていたけれど、津波から命からがら逃げるときには持って逃げようと考えない。
- ・防寒をかね、ポケットの多い防災ベストを玄関に。

○家族の防災マニュアルを作しましょう

- ・集合場所は、〇〇小学校の西の鉄棒のところに午前9時、午後3時に10分だけ待つ。
- ・夫婦の相手の銀行通帳などの情報を共有。

○電話はとことん逃げてから

- ・揺れが収まったら電話ではない。
- ・相手の避難行動を妨げてはいけない。

○子どもたちを守ることは未来を守ること

- ・南海トラフの地震は必ずきます。
- ・必ず生き残ってください。「生きてよかった」そんな話が出来ますように。

16:22~16:24 閉会

- ・いつ起きるかもしれない災害の備えに。

—以上—